

雲鷹丸 第28次 大正14年度南航報告

大正14年11月3日～15年2月15日

大正14年11月3日 午前9時水産局長、所長以下課長、諸教官及農林省技師、諸官の来船。

午前10時全員甲板に整列、局長、所長の訓話及び船長の挨拶等あり。直ちに学生及び諸官に見送られ抜錨す。午後3時13分館山港に投錨。漁具其他の積込品の調査を行ふ。夜に入りて風強くなる。

11月 4日 午前7時より漁具積込。学生半舷は陸、半舷は船にて作業。

積込漁具 地 曳 網 1統 (千葉県水産試験場より)

鮪 縄 40鉢分

飛魚刺網 10反

エビ刺網 5反

鮪縄用ホラッド 6ヶ 燈 3ヶ

銚及属具・餌籠

午後2時より学生実習所に於て身体検査、全員故障なし。

11月 5日 出帆準備、食料其他不足の積込終了。午前7時57分抜錨出帆。午前8時40分洲崎真横。午前10時4分東の針路を取り、10時40分野島崎を真横に見る。12時機関を停止して帆走に移る。浪稍高く風強く、毎時平均6漉の速力をもって船は好走す。鯉群を見る。

11月 6日 風強く浪高くしてうねりあり。午前4時横帆を伸す。午前8時横帆5枚にて走る。午後6時横帆2枚になす。学生に船酔せるものあり。

11月 7日 午前1時頃風浪強く、1時間8漉半の速力。午前4時頃より風力漸次弱く4乃至3に至る。正午SSEの針路をとる。平均速力3漉半。飛魚及鯉群を見る。

11月 8日 餌料用柔魚^{いか}の冷蔵庫温度、今日位より次第に能率漸次悪くなる。凡1時間の運転に2度は下らず。

11月 9日 風向思はしからず、本船の速力出でず。午前8時下手回しをなして、SSEの針路をとる。鯉群船につく。今日船足遅くして1時間1漉内外なり。

11月13日 鯉群を見る。6尾釣獲す。1尾の重量700 800匁(注: 2.6 3.0kg)の鯉なり。

11月14日 午後9時45分汽走を始む。

11月15日 風良く浪無くして船は好走し、毎時8漉半にて南の針路にて走る。

11月16日 午前6時機関を止めて総帆を展ず。風良好にして好走し、毎時平均7漉の速力なり。

11月17日 午前中風力強くして浪高し。船ローリング大にして35～36度に至る。午前中毎時平均6漉。午後に至り風力弱く、平均速力5漉に降る。

11月19日 鯉群を見る。メジ、鮪を釣獲す。

11月20日 午前6時半より縮帆を行ひ、汽走に移る。午前10時サイパン島カラパン錨地に

投錨。直ちに検疫官及サイパン支庁長来船。午後2時士官・学生・水夫の一部分上陸、入浴及び洗濯を行ひ、カラパン町を見物す。鯉節製造工場見学。午後6時帰船。支庁長を支庁に訪ひて諸種の話聞くことにす。明日のプログラムは南洋興発会社砂糖工場見学の事に定む。

- 11月21日 午前8時本船から昼食を持ちて南洋興発会社の製糖工場及甘蔗(注: サトウキビ)園を見学す。村田重役の本島産業及び会社設立に至る迄の事情の講話あり。終りて工場を見学、汽車にて農園を見学に行く。午後3時工場に帰る。是より徒歩にてカラパンに向ひ、午後5時帰船す。
- 11月22日 午前8時上陸。和地良作支庁長の南洋群島及サイパン庁管轄内の話を聞く。有益にして南洋を知るに好資料たり。午後1時サイパン支庁及南洋興発会社の庭球倶楽部員と試合をなす。雲鷹丸惜敗。午後5時一同帰船。尚支庁長の好意により、南洋土人裸体踊を見る。勇壯にして甚だ興味あり。
- 11月23日 午前8時発、チャランカ南洋興発会社の申込に応じ、オールサイパン野球チーム及庭球、剣道の試合をなす。学生意気甚だ盛んにして、観衆熱狂す。午後4時終る。5時帰船。
- 11月24日 午前8時船長及長田技師上陸、挨拶に行く。午前10時出帆予定なりしも、志田水夫脚気の状態宜しからず、当地にて下船し、代りに雇ボーイ1人を乗組ましむ。出帆12時となる。支庁長其他の見送りを受けて出帆す。午後1時半より帆走に移る。
- 11月25日 伊藤学生胃腸を害す、軽度。地曳網、其他鮪縄の整備。午後繩用ブイ及燈火の製作をなす。船速遅々たり。
- 11月26日 無風同様にて航速力全く無くなる。一日中鯉群船に就く。
- 11月27日 今日も無風にて船速遅々。漁具の整備に過す。
- 11月28日 風無く、午前中は毎時平均1湊内外なり。午前10時頃より約2湊半乃至3湊走る。
- 11月29日 本日も風無く、到底予定日までパラオ入港不能なるが如し。故に午前11時より汽走するに決す。8湊乃至9湊にて好走す。
- 11月30日 正午まで汽走して再び帆走に移る。
- 12月 1日 午前中は風相当良好にして平均5湊乃至6湊にて走る。午後凧ぎたり。午後9時より明日パラオ島に着く予定にて汽走を始む。パラオ島庁に無電を打つ。
- 12月 2日 午前4時パラオ島を見る。午前6時W $\frac{1}{2}$ S針路にて進む。午前11時上野省三技師出迎へに来らる。午後2時半マラカルパッセージよりマラカル錨地に入る。午後3時投錨。検疫其他3時半に終る。4時半より船長、長田技師及学生の一部上陸、入湯して7時半帰る。
- 12月 3日 午前8時学生・士官及水夫見学の為上陸す。南洋庁上野技師の案内にて、農事試験所及島民の人情・風俗・生活状態を見る。正午海軍の下士官倶楽部に於て昼食し、自由散歩とす。再びオールパラオ軍より庭球及野球の試合を挑戦さる。

- 12月 4日 午前5時より淡水の積込をなす。積込水約30屯なり。午前8時学生及士官上陸。
午前9時より下士官倶楽部に於て堀口書記官の講話及上野技師の講話を聴く。午後
南洋庁江崎検事の審判にて、オールパラオ庭球チームと試合をなす。惜敗せり。午
後5時船に帰る。当島長の好意により、独身官舎の湯場を解放して使用させらる。
- 12月 5日 午前10時より石炭積込開始す。27屯はバンカーに、13屯は甲板に積込む。午後
2時より学生上陸、野球試合をなす。小学生及其家族の観衆多く、応援狂す。雲鷹
軍溢れる意気を以て終始し、大いに浩然の気を養ひ得たり。雲鷹軍は船長以下長田
技師等応援す。
- 12月 6日 午前8時より上野氏の案内にて鍾乳洞及真珠養殖場を見学す。午後南洋庁の好
意により、南洋各地実写の活動写真(注：映画の旧称)を見る。
- 12月 7日 午前中出帆準備をなし、船長上陸、挨拶に向ふ。上野氏其他の見送りを受け、
午後1時抜錨、マラカル水道より出で、漁場に向ふ。
- 12月 8日 午前2時より帆走す。午前4時出漁す。学生Cワッチ及水夫。漁艇角ドモ2隻及
シーラー1隻。角ドモ 8鉢、5人乗。シーラー 5鉢、4人乗。午前10時各漁艇を収容
し終る。午後3時より黒皮カジキ[1尾、体重：15貫目(56kg)、体長：6尺8寸(204cm)]
のボイルを始む(8ポンド、3時間)。冷却せしめ、翌朝缶詰なす。漁艇出漁中は汽走
し、収容後は帆走とす。
- 12月 9日 午前4時出漁。漁艇は前日通り3隻。Bワッチ出漁。午前10時半各艇を本船に収
容し終る。前日のカジキを缶詰し、3打(注：ダース)を作る。午後は帆走して南西
に流る。漁獲はボイルす。[黒皮カジキ 1尾、体重：20貫目(75kg)]
漁獲物は午前中血抜を行ひ、午後ボイルし、翌朝まで冷却せしむる事にす。以下
毎日同じ。
- 12月10日 午前4時出漁。漁艇3隻、Aワッチ出漁。本船のワッチは本日よりとつぐワッチ
ぬき。セイラー各2名を各漁艇に常員と定む。今日5号艇黄肌を漁す[1尾、体重：8
貫目(30kg)]。昨日のカジキ油漬に製し、42缶を得。午後黄肌鮪はボイルす。午前8
時海洋観測をなす。午後南東に向ひ帆走す。
- 12月11日 午前4時出漁。漁艇3隻出漁。学生C。午前10時各艇を収容し終る。今日は時々
驟雨あり、波浪高く、漁艇操縦・漁艇の監視に困難を感ず。本船に於ては午前8時
より黄肌(昨日漁)缶詰をなし、36缶を作る。午後2時より本日の漁獲物(4匹)の処理
に移る。[黄肌鮪 10貫目、黒皮カジキ 40貫目、芭蕉カジキ 5貫目]。黄肌は油漬用
にボイルす。黒皮カジキは直ちに水煮として缶詰し、4函と1打を得。今日はソソ
ル島近くにて島影を眺め乍ら作業す。
- 12月12日 午前1時頃より荒れ模様にて本船の動揺甚だしき為め、漁艇の出漁を見合す。
午前8時より船内作業缶詰、芭蕉カジキ油漬 20缶、黄肌油漬 82缶。正午ソソ
ル島に接近す。錨地無く、岸深なり。学生及水夫の一部、約2時間上陸す。日本人4名

在島、鯉節の製造をなす。製品良好なるものあり。他は全部土人にして、全数300名足らずと云ふ。午後本船は南東に向ひ航す。

12月13日 午前4時半漁艇3隻出漁。帰船10時半。漁獲物は午前中血抜きをなし、午後ボイルして冷却す。[漁獲物：メバチ鮪 2匹、平均重量：10貫目]。此の付近各所に鯉群を見る。

12月14日 午前4時出漁。漁艇3隻。午前9時半帰船収容す。[漁獲物：黄肌 2、メバチ 1、黒皮カジキ 1]。午前8時より船内作業をなし、前日のメバチ油漬の78缶を得。午後黒皮カジキの水煮60缶を作る。黄肌、メバチ鮪は血抜をなし、午後ボイルす。午後本船はプル島近くの漁場に向ひて航す。

12月15日 午前4時出漁。漁艇3隻。午前10時帰船す。[漁獲物：黒皮カジキ 1匹]。前日の漁獲物の処理をなす。黄肌油漬 41缶、メバチ油漬67缶。午後、カジキの水煮 56缶。プル島付近にては約1時間1裡位の潮流南方に流れ居るを感ず。風悪く、リーウエー多く、南方に流さる。針路西南西。

12月16日 午前4時出漁。漁艇3隻。午前10時帰る。[21鉢、黒皮カジキ 2匹]。風浪荒く、漁艇の操縦及収容に困難甚しく、為に漁獲物を鯨に喰はる。午後4時より缶詰、黒皮カジキ水煮 74缶。午後帆走して南の針路を取る。潮流南東に強く、可成の速力を以て流さる。

12月17日 午前4時出漁。漁艇3隻。風浪強く、天候悪変の徴あり。操縦困難を極む。約1時間早目に縄を揚げ帰船す。今日は豊漁にて天候今少しく漁艇の操縦を安からしめば尚ほ能率を挙げたるは必せり。全部黄肌にして大なるは25貫目内外あり、半は直ちに血抜をなし、残半は冷凍す。[21鉢、黄肌 13匹]。本船益々南下、セレベス島に向ふ事困難になり、東部ニューギニア方向に推流さる。故に午後北々西にコースをとる。

12月18日 今朝は出漁せず。潮流の為南下し過ぎたるを以て、午前10時より汽走して北上す。パラオ島付近の貿易風により西航して、セレベス海に入らんとす。午前8時より昨日の漁獲物の缶詰をなす。油漬277缶。午後、前日冷凍せる鮪を出し、ボイルして冷却す。

12月19日 前日に引続き、午前中は汽走し、平均1時間7裡半位にて好走す。午後0時汽走を止め、帆走に移る。風西方に變ず。昨日のボイル黄肌鮪の缶詰をなし、油漬4函と7缶を得たり。

12月20日 パラオ島西方近くを帆走して北上し、午後9時頃針路を変じてフィリピン群島中ミンダナオ島の南端に向ひて走る。

12月21日 午前中風力微弱にして速力出でず。午前10時曳縄にてカジキを釣る。[擬餌鉤、黒皮カジキ 1匹、12貫目]。午後4時半より西の針路を取りて汽走す。平均1時間7裡走る。

- 12月22日 午前7時汽走を止め帆走に移る。午前8時海洋観測をなす。風雨強くローリング甚しく、観測少々困難なりき。午前9時より1時間5湊内外にて走る。午後9時頃より風西方に変じ、航速を減ぜらる。
- 12月23日 午前2時頃より風力加り、浪高く本船は ームセールのみとす。午前6時30分海洋観測の予定位置に來りたれど、風浪の為危険なれば観測を止む。午前9時30分経度時を改む。今日終日時化走りなり。
- 12月24日 午前2時南西の針路に変じ、ミンダナオ島南方パルマス島に向ふ。午前6時パルマス島を左舷5湊の地点に見て、愈セレベス海に入る。午前10時より此の海峡の通過の為め汽走す。午後1時半通過、帆走す。セレベス海に入りて漸く沈静になる。今日はクリスマスナイト、学生及其他一同、夕食には御馳走なり。
- 12月25日 午前6時サンギ島西方に在り、午前7時海洋観測をなす。午前9時経度時改正をなす。午前11時曳縄に真鰹2尾、鱈1尾(800匁内外)かかる。今日より夜縄を試む。午後4時出漁。漁艇3隻。各艇鱈のみ、鮪の漁獲なし。午後10時各艇を收容し終る。サンギ島近くに向ふ。
- 12月26日 午前中サンギ島より約20湊西方に達す。午後4時各艇出漁す。午後9時半各艇收容す。[21鉢、黄肌、メバチ、黒皮カジキ、7匹]。漁獲物は直ちに血抜を行ひ、翌朝ボイルに決す。本船はステー・セールのみにて風に流す。当漁場には飛魚、鰹、其他の小魚多かりき。
- 12月27日 午前7時より昨夜の漁獲物の処理を始む。中甲板及上甲板の両方の釜にてボイルす。午前8時より海洋観測をなす。午後4時出漁、Siau島西方なり。午後9時半帰船す。[21鉢、黄肌、メバチ、7匹]。直ちに漁獲物は血抜きをなす。既に積込みの空箱を殆ど使用したれば、本日の漁獲は冷凍に決す。
- 12月28日 午前8時一昨夜の漁獲物冷凍せるものを缶詰す。黄肌2函、メバチ1函、22缶。午前10時作業を終る。昨夜の漁7尾は今朝冷蔵庫に入る。午後メナドに向ふ。学生はメスルーム及ベッドルーム、其他の大掃除及石鹼ぶきをなす。
- 12月29日 午前5時半メナド北方海上にて海洋観測をなす。午前6時50分より汽走す。午後0時半メナド港第3浮標に繫留す。檢疫其他甚だ寛大にして、官吏来ずに、書類のみ提出す。南貿山崎氏及林商店主来船す。午後4時学生水夫一同上陸見学し、午後8時に帰船す。学生伊藤、吉沢、胃腸を害し上陸せず。
- 12月30日 本船は午前8時より総帆を乾燥せしむ。半舷の学生水夫は餅搗を正午に終る。正午より一同上陸見学す。水は南貿の手により積込をなす。水船小なりし為めに、今日は30屯積込たり。午後8時一同帰船す。長田技師トンダノに行く。
- 12月31日 午前中船内各部の整理及掃除を行ひ、午前9時30分水の積込を終る。天候次第に險悪となる。午後ケーマ港に避難する事に決し、諸用を達する為に学生水夫午後4時迄に上陸を許す。長田技師帰船さる。午後5時抜錨、ケーマに向ふ。夜に入りて

海静かになる。避航中に大晦日を送る。

- 大正15年1月1日 午前8時ケーマ港に投錨。午前8時半にオール・フラッグを挙げ、各自入浴し、元旦の食卓につく。午前10時学生水夫一同、後部甲板に於て皇運無窮を祈る。午後上陸。船長、事務長、所用の為メナドに向ひ、午後4時帰船す。
- 1月 2日 船内一同休養。午前と午後と二分して、半舷上陸をなす。一等運転士ハルマヘラ方面の海図購入の為め、メナドに行きしも手に入らず。和蘭の官船に至りて海図を写し取りたり。
- 1月 3日 午前6時発、士官及学生一同上陸。当地の日本人会の好意によりてトンダノ方面見学に自動車にて行く。終日トンダノ湖畔に暮し、山田商店の饗応を受け、メナドを通過して午後7時に帰る。
- 1月 4日 昨日居残りたる士官は今朝トンダノ方面見学に行く。学生は当ケーマに上陸、各所を見学散策、自由行動を取る。午後7時半一同帰船と共にメナド日本人会の7名来船、晚餐会を開く。
- 1月 5日 5時半抜錨。ケーマ港外に於て日本人有松氏経営の琉球人使用の追込網を見学す。午前10時見学を終へ、北東の針路にて汽走す。午後1時20分より帆走に移る。大正15年の初航海にて、今日よりハルマヘラ島に向ふ。
- 1月 6日 風良好にして好走す。午前5時30分より海洋観測を始む。6時半終了。午後1時頃より風稍強。午後10時半頃より漸次凧ぎ、11時過ぎ無風帯に入る。
- 1月 7日 午前3時頃より風出で、平均5裡内外にて走る。午前中よりハルマヘラ島遠景を見る。午後5時頃トベロ島北方約35-36裡の地点に行きしも、仮泊すべき地なく、海図亦不正確なりし為、沖合に一夜を明かす。鯉群甚だ多し。
- 1月 8日 午前5時まで帆走せしも、汽走に移りてカラに向ふ。浪静かにして鯉群を至る所に見る。当湾は内湾と外湾に分れ、東京湾に相似たり。午後2時40分から部落沖に投錨す。午後4時学生の一部及長田技師上陸、当地に居る日本人江川氏に面会す。午後6時江川氏来船。船に一泊して当地方の話聞く。
- 1月 9日 午前中上陸し、同島の部落を見、人情風俗に接す。同時に本島土人及商人の参観者多数来船す。午後1時15分出帆して、ハルマヘラ北部の漁場に向ふ。
- 1月10日 カラ錨地より東北方の約130裡の地点に於て漁に着手す。午前4時出漁の予定なりしも、襲雨猛烈にして終に6時より出漁し、昼縄を入れる。漁獲無く、12時ボートを収容し、東方に航す。[鮪縄16鉢、鱈・鱈 3尾]
- 1月11日 午前4時の出漁は、今日も猛雨の為め後れ、風浪高く漁艇の操縦困難なりしも、午前8時2隻を出し、午前11時帰船す。漁獲無し。[鮪縄16鉢、鱈3尾]。日中の縄は良好ならざるが如し。従業も炎天下に於ては苦痛甚し。午後帆走して東方に向ふ。
- 1月12日 午前6時漁艇出漁。午前11時50分帰船す。第5号艇カジキ1尾[15貫目]、其の他は鱈のみなり。今日を以て本航海の漁を切り上げる事とし、冷蔵庫を解放し、午前

- 8時より残り餌料柔魚620尾を捨つ。カジキ鮪は午後缶詰にす。1ポンド缶28個、半ポンド缶68個。午後東方に航走す。漁具の手入れをなす。
- 1月13日 1日中全然無風。船は只赤道反流にて流さるるのみ、自力更になし。午前中漁具の手入れをなす。一部にて冷蔵庫の掃除をなす。午後5時頃既に赤道に接したるを以て、赤道祭をなす。午後8時より汽走に移る。
- 1月14日 無風。平均7湮の速力にて終日東北に走る。午前中製品缶詰の整理及漁具の手入れを行ふ。暑気厳し。
- 1月15日 午前6時汽走を止む。6時25分より海洋観測をなす。後帆走に移りたれども、風無く1時間平均1湮内外なり。
- 1月16日 午前中無風。1湮乃至2湮位より出でず。終に午後5時より再び汽走に移り、北々西に進む。
- 1月17日 終日汽走、北上につとめ、貿易風帯に入らんとす。魚群を溶鉛の洋上に見る。
- 1月18日 午前5時汽走を止む。帆走に移りてパラオ島東方を午前中に通過して、西北の針路にて1時間5湮内外にて好走す。今少しく東方より北上せんとせしも、風向の都合上止むなく此の針路をとる。
- 1月19日 昨日より昼夜を通して全帆にて好走し、1時間平均5湮半の速力にて航走す。鯉群を見る。
- 1月20日 前日の通り昼夜引続き好走す。午後に至り浪高く風次第に加わり、北々東と交じたる為め、船首は北西に向けざるを得ず、速力は減じ来る。午後10時頃より更に風力を増し、暴風となる。
- 1月21日 午前中はNW $\frac{1}{2}$ Nの針路にて、平均7湮半の速力にて走る。痛快なり。午後9時半より高気圧を示し、風次第に加り、浪高くなる。午後11時頃より荒天となる。
- 1月22日 荒天にて午前3時よりストーム・セールのみなして走る。浪高くして船足は遅々として出でず。風圧差多くして、次第に西に圧さる。午前7時より全て暴風と化す。
- 1月23日 風力尚減ぜず。今日もストーム・スルにて遅々として進む。風圧差多く、西圧さるる事益々多し。
- 1月24日 今日も亦荒天。東北の風強烈にして、浪船橋に上る。航速平均1湮半。針路NW/Nにて風圧差多し。
- 1月25日 午前8時経度時を改正す。風浪前日と異ならず。午前10時メイン・トップスル裂く。午前11時之を降し、午後0時より新調品を取付く。今日も平均1時間に2湮なり。
- 1月26日 前日と変化なく、午前中2湮乃至3湮の速力にて走る。午後3時頃より4湮内外となる。午後10時頃風力とみに増す。
- 1月27日 午前中帆走をなして平均4湮内外走る。午後1時より汽走をなし、フィリピン群島ルソン島を更はすべく北上す。終に西圧され直接那覇に向ふを得ず。尚期日切迫の為に残炭をたき、台湾の高雄港に入りて、同地にて石炭を取る事に決し、東京

に打電す。午後平均速力5浬也。

1月28日 午前6時既にルソン島を更はし得。風向東北東に変じ、良好となりたる為、帆走に移る。7時より針路を西北西に改む。

1月29日 午前0時半より汽走を始む。毎時平均8浬位にて好走。午後3時ガラランピーの先端を見、午後6時半頃右舷側に見る。台湾西岸を北上、高雄に向ふ。ジャンク船多し。

1月30日 午前0時半高雄港外に仮泊。夜明くるを待つ。午前8時25分港務部員来船す。午前9時12分より入港。(港口に最も近き左方の浮標に繋留す。両錨及ブイ) 午前10時作業を了へ、一同入浴し、午後2時税関吏来り、午後2時半手続終了。午後3時半より一同上陸し、午後8時帰る。

1月31日 午前7時より水積込に着手す。午前9時50分終了。午前10時より石炭積込始。午後3時にこれを終了す。学生一部台南見学に行き、一部鳳山缶詰会社及東洋製缶工場及併東台湾製糖工場を見学す。

2月 1日 正午まで各自所用を達し、正午より出帆準備。港務部の都合に依りて午後3時半出帆となる。(軍艦ナガラ入港の為)。午後3時28分港務部の吏員来船と同時に出港許可。直ちに港外に出で、南方に向ふ。午後10時以後は風に向ひて船足出でず。約3浬位にて速力減ぜらる。

2月 2日 台湾南端ガラランピー沖の風浪甚だ強く速力減ぜられ、午前4時頃は舵全然きかず。速力1浬内外なり。正午頃に至り4浬内外、午後5時頃は6浬位の速力にて航するを得たり。

2月 3日 毎時平均7乃至8浬にて好走す。

2月 4日 午前7時迄は無風好走。午前8時より風次第に加はり、速力減じ4浬平均となる。夜に入りて益々強く、此の分にては那覇に碇泊する事困難なるべきを慮りて、中城湾与那原港に入るを決す。那覇試験場に打電す。

2月 5日 午前5時頃まで風強く、平均1時間4浬なり。午前6時頃より6浬内外となる。午前11時中城湾南水道より入る。午後0時45分投錨。那覇郵便局に使を出す。午後6時より船長其の他各士官知事の晚餐会に行かる。

2月 6日 午前8時より学生一同上陸。那覇に行き、水産学校を訪問し、各標本等見学、茶菓の饗応あり。終わて市内見学、午後6時に帰船す。

2月 7日 湾内風浪無く静かなり。学生の大部分は午前中より首里城見物の為め上陸す。午前9時50分沖繩県立水産学校生徒見学の為め来船す。生徒を二分して学生説明す。0時50分名残を惜みつつ退船、帰那覇の途に就く。

2月 8日 7時56分船は沖繩を後に、館山に向って進む。海上波無く、毎時平均8浬半の速力にて快走す。此日曇天にして、稍冬らしき感あり。

2月 9日 午前1時より5時頃迄、東北東の風にて船速出でず、6浬内外。夜明けに風は東へ

と回り、午後に至りて南東に変ず。風力も次第に増加し、8湊の速力にて航走す。
天曇りて雨模様となる。

2月10日 午前4時北東の風強く、1時間の速力9湊に至る。夜の明るに従ひ、風は南へ回
り、少しく風力劣る。午前8時機関を止めて帆走に移る。風は次第に西に回り、追
風、追波にて良く走る。午後8時20分土佐室戸崎をビームに見る。風依然として強
く、浪大なり。

2月11日 午前1時頃より風無く、帆走も思いしからず。午前3時55分より又も汽走に移る。
夜の明るに従ひて風力を増し、漸次展帆して快走す。毎時平均8湊。午後1時に至る
頃より風は一段と力を増し、波浪高く動揺大となる。毎時の速力は6湊に下り、一
時過速にジブを破る。夜に至るも風止まず。

2月12日 前日の強風は少しく力を減ず。風向良く汽走・帆走にて良く走る。午前6時55分
御前崎灯台北々西に見る。8時頃より空模様悪く、少量の雨あり。12時45分石室崎
沖2湊を通過す。夜に至り風力は次第に力を減じ、海面至極平静、毎時の速力8湊。
午後4時28分大島乳崎灯台をビームに見る。午後8時20分無事館山に投錨。

2月13日 午前7時より漁具陸上げをなす。午前8時より休養。12時30分学生一同身体検査
の為、実習場寄宿舍に集合、検査終り10時迄上陸を許可され、思ひ思ひに散歩をな
す。

2月14日 午前7時半総帆を乾す。8時30分メイン、フォアアのキャンヤードを降す。11時
総帆を縮帆し、今日の仕事を終り、午後上陸を許可さる。夕刻より曇天となり、雨
来る。夜に入り風力を増し、明日の出港気遣ふる。

2月15日 昨夜からの北西の風は未だ止まず、雨さへ加りて天候険悪となる。午前4時遂
に錨地を変更す。午前9時総員甲板にて出港用意。午前9時30分には全速にて品川に
向ふ。学生は荷物の整理にて多忙なり。午前10時より11時迄運用・漁具の試験を行
ふ。午前11時40分観音崎を通過、午後2時__品川沖に投錨。水産局長代理、下田農
林技師、小瀬・鎌田・篠山__他諸氏出迎はる。

史
汽

大正15年2月25日

雲鷹丸船長 日比義三

水産講習所長 岡村金太郎殿

大正14年11月より大正15年2月に至る生徒実習並に鮪漁場調査の為、雲鷹丸航海報告
別冊の通り及提出__也

航路図奉付